

佐潟自然情報

【11月】

11月、別名では霜月（しもつき）ともいいます。秋から冬へと移り変わる頃です。日ごとに寒さが身にしみる頃でもありますが、寒さはお休みのようで暖かい月でした。

潟ではハクチョウやカモたちでにぎやかです。新潟まつりの花火の影響かわかりませんが、一時期ハクチョウの数がおよそ7,000羽もいました。その後は、平均およそ4,000羽ねぐら（休息する場所）として確認しています。渡って来た頃のカモたちは、オスはメスのような色をして区別が付きにくいのですが、だんだんと羽根が生え変わり、オスの羽根色へと衣替えしていきます。

また、自然生態観察園ではオオマルバノホロシの赤い実など、秋の彩りを感じます。晩秋から初冬の佐潟、どんな出会いがあるか楽しみですね。



〈 佐潟の様子 〉

■11月に見られたもの

〔植物〕

ノゲシ、スギナ、ヨモギ、セイヨウタンポポ、カタバミ、シロツメクサ、オオマルバノホロシ、ウキヤガラ、ヒシ、デンジソウ、ハルジオン、ガマ、オオバコ、ヤハズソウ、ハキダメギク、シロバナサクラタデ、キンエノコロ、エノコログサ、カゼクサ、ノコンギク、アキノノゲシ、ヌカキビ、チカラシバ、イヌタデ、オオイヌタデ、ヒメジソ、メヒシバ、アキノウナギツカミ、セイタカアワダチソウ、ミノリバ、イシミカワ、アキノキリンソウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、キツタ、キカラスウリ、ノブドウ、クズ、アオツツラフジ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ、ヒヨドリジョウゴ、ツルマメ、ガガイモ、カナムグラ、ヤブマメ、ヤツデ、ヤブツバキ、アオキ、モッコク、トベラ、エノキ、タチヤナギ、コブシ、オニグルミ、ナワシログミ、アカメガシワ、タブノキ、エゴノキ、ノイバラ、シロダモ、ハマナス、ネムノキ、サルスベリ



〈 ヒメジソ 〉



〈 アキノウナギツカミ 〉



〈 イシミカワ 〉

〔鳥類〕

キジ、ヒシクイ、マガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、オシドリ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヘラサギ、バン、オオバン、トビ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン



〈 コガモ 〉



〈 ハジロカイツブリ 〉



〈 ベニマシコ 〉



〈 シメ 〉

〔その他〕

モンシロチョウ、キチョウ、アシナガバチの仲間、セグロアシナガバチ、アキアカネ、コバネイナゴ、
ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ、コカマキリ、ツマグロオオヨコバイ、ジョロウグモ、
オオカマキリの卵のう、ナガコガネグモ卵のう、
コイ、ニホンアマガエル、ミシシippアカミミガメ、
ネズミの仲間、
モズのはやにえ（コカマキリ等）



〈 オオカマキリの卵のう 〉



〈 コカマキリ 〉



〈 ナガコガネグモ卵のう 〉



〈 ネズミの仲間 〉



〈 モズのはやにえ 〉